

義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校について

1 定義について

No	名称	施設	説明	概要	組織	免許	制度
1	義務教育学校	施設一体型	同一校舎内	<ul style="list-style-type: none"> ・小中9年間の義務教育を一貫して実施。 ・組織体系を一つにするため、校長は一人。 ・制度設計の幅が広がる。 	1	先生は小中両免許所有者	6・3制、5・4制、4・3・2制の導入が可能
2	小中一貫型小学校・中学校	施設一体型	同一校舎内	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校組織と中学校組織の枠組みはそのままカリキュラムに一貫性を持たせる。 ・小学校と中学校に校長が一人ずつ。 ・6・3制。 	2	どちらか	6・3制
3		施設隣接型	隣接する小中学校				
4		施設分離型	離れた場所にある小中学校				

(参考 文部科学省、小中一貫教育の導入状況調査による文言定義)

小中連携教育：小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す教育

小中一貫教育：小学校連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す

2 答申(一部抜粋)

- ・施設一体型の義務教育学校にすることが理想的。
- ・建設することが難しい状況を考えると、併設型小学校・中学校の形態で小中一貫教育を推進することが望ましい。
- ・小学校を新設する場合は少しでも中学校に近いことが望ましい。
- ・施設一体型の義務教育学校は、将来中学校の改築等が必要となった段階で、その時の児童生徒数の状況、地域や社会の状況等を踏まえて検討。
- ・小中9年間を通して連続的・系統的、計画的に実践する一貫性のある教育は、小学校の再編を待つのではなく、一年でも早く実施していくことが大切。
- ・小中学校の接続を中心に、小・中学校間で目指す子ども像を共有し、同じ方向性をもってカリキュラムの編成、実施、マネジメントを行う取り組みを組織化し、推進することを考えたい。

3 第1回学校再編検討会

- ・小学校と中学校の区切りは大切。
- ・校長職にかかる負担も大きいので、小諸市規模では2人以上いる環境が望ましい。
- ・まず、願う子どもの姿の共有や小中でのイメージの一体化を図る。
- ・学校再編と一貫教育制度とは切り離して検討。(新校創設後、連携を深めていくため近隣地に校舎創設を目指す。)一貫させる内容の精査・具体化を検討する。

4 第2回学校再編検討会

- ・小中連携による教育の推進が必要。